

兵庫県立森林大学校 評価表

1 学校の教育目標

人材の養成	(到達目標)
(1) 森林林業の即戦力となる人材の養成	課題に対して、自ら考えて、安全かつ効率的に現場作業が実施できる。
(2) 森林林業の次代のリーダーとなる人材の養成	幅広い視野を持って将来を見通すとともに、状況の変化や課題に対し柔軟かつ計画的に判断と行動ができる。
(3) 多自然地域に居住し、地域貢献する人材の養成	地域社会の一員としての自覚を持ち、地域振興や課題の解決に貢献できる。

凡例

今年度新規追加項目

2 本年度に定めた重点目標

区分	本年度に定めた重点目標	評価項目	達成状況	達成状況・実績等	課題や今後の改善方策等	有識者会議等での意見
重点目標	ア 意欲ある学生の確保	専攻科5期生の確保 20人	未達成 16人合格 (1名進路変更で辞退見込)	・16人の出願に対して県内出身者11人、県外5人の合計16人が合格したが、1人進学のため辞退見込み ・今年度は、受験者数が20名を割り込んだ。	・林業大学校が全国で20校となり、県内高校や既卒者など学生確保・PR方法の検討必要 ・デザイナーによる斬新なパンフレット、ポスターの全面改定やHP、SNSの充実を検討	
		オープンキャンパス等の募集企画 2回	達成 2回	・1回目はフェンソー、ドローンの授業体験や学生企画の野草茶や相談会を、2回目は林業機械体験を企画。 ・コロナ第2波の影響で人数は少なかったが、初めて群馬県からも参加があり59名の内、受験対象者22名(女性1、県外5)の参加者があった。	・コロナ禍でのオープンキャンパスの開催方法等を検討	・次年度も県民局事業で林業体験会開催予定 ・農業ではWebで就業相談会を行い全国から20~30名参加あったので参考に
イ 林業就業に向けた支援		2年生の森林林業関係への進路確保 20人	概ね達成 17人(1名は体調不良で休学中)	・卒業見込17名のほとんどが森林林業関係へ進む見込 ・組合4、事業体1、木材1、森林3、県2、機構1、その他5(建材、医療、食品) ・県外出身者3名中1名が県内。宍粟市出身2→隣接市町へ ・県内外44社70名の求人があった	・早めの対策指導の充実が必要 ・基礎セミナー等を活用し1年生から企業訪問等実施 ・都市部での森林林業関係の求人掘起しが必要	
		1年生の森林林業の進路に向けた意識醸成 20人	未達成 15人(2名が進路変更、さらに4名が就職等で中退見込)	・H31～基礎セミナーを新設し、進路の手引や個別面談で指導 ・10～11月に6日間林業と木材関係の11社で就業体験 ・進路希望は林業5、木材2、森林2、公務員3、進学3	・成績不振に伴う中退対策が必要 ・学習意欲の向上、個別補講等の充実を検討	
ウ 学校運営の円滑化		新型コロナウイルス感染症対策の徹底 0人	達成 0人	・コロナ感染症対策方針の策定 ・三密防止、消毒、検温、マスク着用、飛沫防止板、換気等の対策徹底、遠隔と対面併用の講義、カリキュラムの組替等を実施		
		災害時等の安全対策の充実 2件	達成 2件	・当初予定の防災訓練はコロナで中止。 ・体育館の避難所運営を市と協議。 ・学生のコロナ対策マニュアルや大雪対策を充実	・引き続き、火災風水害等の防災マニュアルや避難訓練等の実施が必要	
		新型コロナウイルス等に伴う学生支援 3件	達成 6件	・支援機構のコロナ奨学金3件 ・懸案事項だったメンタルヘルス対応のため、新たにスクールカウンセラーを設置し教員研修2回や学生の相談指導3回実施		
		森林環境教育や公開講座など大学校の資源を活用した地域貢献等の機能強化	達成 15件	・小学校の森の探検隊授業はコロナで中止 ・老人大学等の森林林業講座や隣接県を含む6高校等の視察体験授業15件 ・市の協力を得て木育新聞の発行や生涯学習の報告書で学校紹介・卒業研究発表を実施	・林業事業者からどのような学生が大学校で学んでいるか知る機会を設定してほしいという要望やチェーンソーの使い方、目立方法の講習会の継続要望等もあり ・コロナの状況も踏まえながら大学校の資源を活用した地域住民や林業事業者、保護者等を大学校に誘う公開講座など地域貢献等の機能を充実	・隣接幼稚園のレストラン実施が現実になってきたので、学生や教職員の活用や協力を願いたい。
		地域住民との連携や交流、地域貢献の実施 10回	達成 20回	・清掃や学校周辺草刈などの地域貢献 ・地元高校との合同体育大会、地域の祭、商工会や観光協会の行事や県、市町、地域のイベントなど予定イベントがコロナで全て中止。 ・新たに国見の森公園などのボランティア活動に参加し、連携・交流、地域貢献を実施		
		学校の理念・目的・育成人材像の達成	概ね達成	・大学校の設置及び管理に関する条例で、理念・目的を定めた。 ・学校の教育目標として、ディプロマポリシー(人材養成方針)において育成人材像を定めた。 ・コロナ禍の中で川上川下の垂直連携、他林大や他府県との水平連携、同窓会など世代を超えた時間軸の連携などは不十分	・開校5年目を迎え、もう一度、なぜ「森林」大学校という名前を付けたのか、コロナの状況を踏まえながら川上川中川下の垂直連携、他林大や他府県との水平連携、同窓会など世代を超えた時間軸の連携など幅広い視野の中で林業を捉え直す必要がある	
		新しい変化への対応等のため、余裕を持った対応ができるよう教職員の働き方改革を推進	概ね達成 超勤の対前年度比14%減	・人員増やテレワーク、多様な勤務時間等の設定を推進 ・超過勤務時間の縮減や計画的年休取得を促進し、年々改善	・新しい変化への対応等のため、余裕を持った対応ができるよう、引き続き、教職員の働き方改革を推進	
エ 教育活動の充実	教材研究等学生の学習意欲の向上 2件	達成 2件	・新たにアクティブラーニングによる課題研究や学生の主体的な企画による球技大会やオープンキャンパス等を実施し、学生の主体的な意欲向上を図った	・単位未取得による留年・中退対策として、アクティブラーニング手法や教え方スキルの向上、理解不足の学生への補講など学生の学習意欲向上に向けた取組が必要		

	・伐木等安全教育の充実 2件	達成 2件	・林業の事故を踏まえ、さらなる安全意識の徹底と安全教育の充実のため新たに機械実習で各班に安全担当を配置し各班2名体制の実習指導や伐倒練習機による安全教育等を充実		
	・専攻科カリキュラムや自主研修の充実 5コース	達成 11コース	・H31基礎セミナー、キャリアデザイン等のカリキュラムを新設しキャリア教育の充実や学生要望等を踏まえた自主研修実施 ・新たな実務経験者の招聘等による実務教育の充実 ・H30～R2国立大や他の林業大学校と連携し専門人材育成プログラムの強化を検討し造林育林、伐木造材、測量測樹の共通テキストを作成 ・R2～学生の進路に対応できるよう治山系等選択3科目、演習2科目、組替新規3科目計8科目に加え分収造林地を活用して植栽から伐採まで体系的な実習カリキュラムを充実		・全国林大の共通テキスト作成は良い取組 ・先に実習して学生の興味を引きつけてから座学をするなど座学と実習を同時並行する方が良い。参考：日林誌(2019)101:193-200「林大の学生満足度」、長野林大「全国林大生の意識調査」 ・SDGsのカリキュラムが必要 →現在は概論や体験研修等で履修
	・研修科カリキュラムの充実 15コース	達成 26コース	・都市部の市町を対象に木材利用を充実した市町研修や伐倒練習機を活用した労働災害防止研修等5コースを新設するなど28コースの研修を企画したが、天候や新型コロナで中止したものもあり、延26コース46日の研修を行い、延352人が受講	・さらなる受講者の増加に向けて、受講しやすい環境や周知方法、要望を踏まえた企画が必要 ・将来的には体系的なカリキュラムを構築し修了認定を行うなど今後の検討が必要	・林業への定着率向上に向けて受入先企業の課題に対する研修も必要である。
	・学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	概ね達成	・業界のニーズに対応するため、有識者会議での意見聴取やパブリックコメントを実施 ・国立大と連携して、就職先企業等との意見交換会を実施	・受講終了後のアンケートや卒業生就職先アンケート(就職後半年以上経ってから)などを活用しながら世の中のニーズ把握の継続が必要	・林大生は山歩きやチェンソの持ち方など基本的な知識や資格を取得しているのありがたいが、親がホワイトカラーを求めている場合がある。
	授業評価の実施・評価体制はあるか	概ね達成	・研修終了時や年度末に学生・研修生に対してアンケートを実施するとともに、常時、学生との会話を通じて意見を吸い上げ、有識者会議で意見交換する。 ・授業評価アンケート結果は、可能なものからカリキュラムに反映するように配慮	・今後も授業評価アンケート結果は、可能なものからカリキュラムに反映するように配慮する必要がある	・林大も増え社会的認知度も向上し、学会でも学生満足度の論文が出ているので、授業評価は他の林大とも比較すると良い。 ・シェアハウスの生活実態調査や満足度調査も合わせてお願いしたい。
	実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫などが実施されている。	概ね達成	・1年次は林業関係と木材関係、両方でインターンシップ研修(6日間)を実施するとともに2年次は各自就職先を踏まえた事業体で学外就業体験(6週間)を実施するなど段階を踏まえた職業教育を行う。 ・どうやって木を使うかという観点の川下の講義を増やす必要があるとの意見を踏まえ、卒研等で木材関係の課題研究を実施 ・森林会計学等は15コマでマスターできないなどもう少し深掘りできるように複数講師で個別指導等を実施 ・安全教育や技術定着、補講等で、現場のリスクアセスメント、足場や退避場の確認、示唆呼称等の基本動作を徹底 ・コロナ禍の中、伐木選手権の参加と審査員の育成は中止	学生が自尊心不足、燃焼不足という意見が外部講師からあり、学生の学習意欲や質の向上として ・学生の反応を踏まえた教え方や教材研究、アクティブラーニングなどさらなる教育方法の工夫等 ・選択科目の新設等による学生の興味に即したカリキュラムの提供など ・進路に応じて選択できるよう、木材利用の講義などの選択科目の充実を検討 ・コロナの状況を踏まえながら、今後も伐木選手権や審査員の育成を検討	・離職の状況はどうか？ →林業分野からの離職はないが、人間関係等で同業他社への転職はある。 ・林業への定着率向上に向けて卒業生の生の声を聞く機会を設定する必要がある。 ・受入先企業の課題に対する研修も必要である。(再掲)
	・インターンシップ等実践教育受入事業体の確保 30事業体	達成 33事業体	・インターンシップ等の実践教育を33事業体(学外21インターンシップ11)で受け入れていただき、終了後、受入事業体等の参加を得て報告会を実施し、「どのような考え方の学生が学んでいるのか知る機会となった」と参加事業体から評価を得た。		・報告会ではコミュニケーション力も培われ自分の意思表示ができていた。次のステップではWeb等も活用し企業とのコミュニケーション力を高めていく必要がある。
エ 教育環境 の充実	・企業・団体等との連携強化 2件	達成 4件	・R1～チェンソーメーカーと連携協定を締結し世界伐木選手権の実習等安全教育を充実。 ・R1～隣接県と連携協定を締結し学生募集や教育を充実。 ・H2～新たに国と市と連携協定を締結し講師派遣や実習地を充実。 ・H2～企業版ふるさと納税で新たに研修用テントを導入し森林環境教育を充実。 ・国立大と連携し業界等の要望を収集し専門人材育成プログラム充実の参考とする。 ・建築系博物館との連携に向けて協議継続	引き続き企業・団体等との連携を強化する	
	・教育環境の機能強化 2件	達成 4件	・新たに伐倒練習機・風倒木練習機や高性能林業機械を整備し実習を充実、遠隔授業の環境を整備しコロナ禍での授業体制の構築。 ・高校等の林業教育プログラムを開発し月1回出張講義等を実施。 ・H2～企業版ふるさと納税で新たに研修用テントを導入し森林環境教育を充実 ・実習地の携帯電話の電波状況改善やIoT対応等は機会を見つけて口頭で要望 ・提案のあった県道や国道の案内標識設置については、口頭で依頼	・実習地の携帯電話の電波状況改善やIoT対応は引き続き機会を見つけて要望等を実施 ・提案のあった県道や国道の案内標識設置については、地元自治会と連携して要望書を提出するなど引き続き要望活動が必要	
	・実習地等の充実 2件	達成 3件	・実習地充実(国、市、隣接県内企業) 3件達成 ・国有林の分収造林地や市町有林を活用した主伐再造林や保健休養学等の実習を充実		